

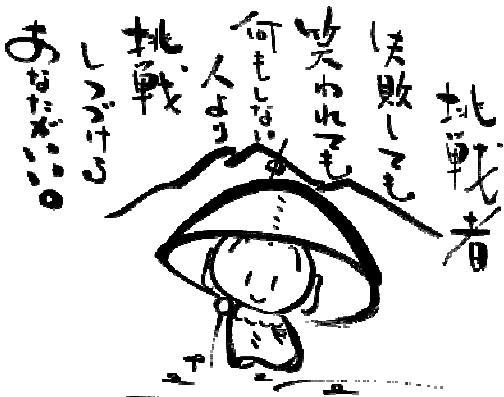
『五島市議会議員選挙への出馬に関する決意』

私は貝にはなりたくない！
 泡沫候補者でもありません。この8年間、私は政治活動としてインターネットサイト五島ジャーナルにて、市政・市議会への提言をやってきた事を誇りに思っています。



選挙時にいつも思っていた名前連呼だけの選挙カーでの街宣。選挙ポスター、選挙ハガキ、ガソリン代に運転手代。これらは全て税金です。一候補者に対して最大98万円の税金が負担されます。先ずは私が出馬するにあたって税金を使わせていただくだけの立派な立場であるのか！？と自分に問いました。これまで税金の無駄使いを主張してきた市民の一人として税金に頼らないで、正々堂々とクリーンな選挙戦で期間中に果たす公約とします。

市政への初！挑戦！！ 自分自身への初！挑戦！！



私は戦中の戦犯の元陸軍中尉・加藤哲太郎の手記「狂える戦犯死刑囚」の遺言部分をもとに、橋本忍の脚本で制作されたテレビドラマおよび映画化された「私は貝になりたい」(2008年版 主演 中居正広)を観て感動したものです。

そんな私は今の五島市の閉鎖的な空気の中で「私は貝になりたくない」との思いから、五島市行政と五島市議会に対して五島ジャーナルで発信し続けてまいりました。私はそんな五島市議会に一石を投じる小さな石になりたいと思っています。ただ、「私は貝(下位)にはなりたくない」。この二つを私の公約とし、今回の五島市

丸田たかあき

議選に出馬を決意した心の本音です。

公職選挙法で定められた選挙運動を遵守し、私の流儀で戦い抜きます。
 最後に、無謀だと笑われ、選挙を舐めているのかなどと罵声をあびせられる事も覚悟しておりますが、この選挙を通じ、若い世代、多くの市民の皆さんに何かを感じて頂けたら幸いなのです。

次世代の若者達が何にでも「挑戦」してみようって感じてくれる戦いをやり遂げます。議員当選！こればかりは有権者が判断することだから「当選する」とは言いきれませんが、試合に負けても勝負に勝つように、正々堂々と自分の限界に初！挑戦！！させて頂きます。

丸田 拝

事務所

五島市中央町7-25(寅寿司横)

連絡先

090-2080-8438

13,000人

※市は努力して20,000人と言っていますが・・・？
(40年後の五島市の将来人口)

昭和30年、93,000人もこの五島に住んでいました。
昭和50年、70,000人
平成7年、50,000人
そして今、37,000人



長崎県でも有数の面積を持つ五島市が、今でさえ限界集落（衰退していく地域）になりつつあるのに、このままでは、五島市の崩壊は避けることの無い現実となります。

40年後では、きっとありません。

ある程度のレベルまで人口が減少すると、加速度的に人口減少は進むに違いありません。なぜなら、仕事が出来なくなり、いろんな業種の人々が五島市から撤退していかねばならないようになるからです。

つまり、40年後ではなく、30、20、10年後にそういう事態が起こりかねない？

それが私たちの故郷、五島市の現況なのです。

皆さんが知らないわけではありません。一人ひとりの市民に聞いてみると皆さんが同じように思っているのです。

「**こんまんまじゃいかんばい・・・**」しかし、恐ろしくて声に出して言えない・・・

五島市の基本政策や今の市議会の現状を見て下さい。

もっともらしい政策がならべてあっても、毎回同じような議論を繰り返して全く成果が見えてきません。

国会議員も五島出身、県議会議員もいるのに、今の五島市の現実「政治不況」と言って過言ではありません。

国境離島新法が施工（今年4月）されても、このままでは五島市の発展は期待できません。

ふるさと五島市には、外に誇るべき資源・資産があるはずです。

私は、ふるさと五島の皆さんとともに語り合い、私たち自身の手で、五島を再生していきたいのです。

子供や孫たちに誇れる、豊かな島に！

私は全力で頑張ります。

丸田 たかあき(48才)

五島市中央町

昭和43年 福江市中央町に出生

昭和56年 市立福江小学校卒業

昭和59年 市立福江中学校卒業

昭和62年 県立五島高校卒業

平成8年 五島にUターン

現在五島市で SEとして独立自営(合)三恵
福江中学校PTA会長2期(平成27・28年度)